

## ●共同利用拠点プール的前提条件および共同利用候補校の抽出条件

### 前提条件

- ①簡易温水プールを前提とする
- ②自校以外のプールを利用する際は、移動中の安全対策の強化を行う
- ③自校以外のプールを利用する際は移動時間が生じ、効率的な水泳授業が求められることから、水泳授業の委託化を基本とする
- ④複数校でプールを利用するため、水質管理等の管理委託を検討する

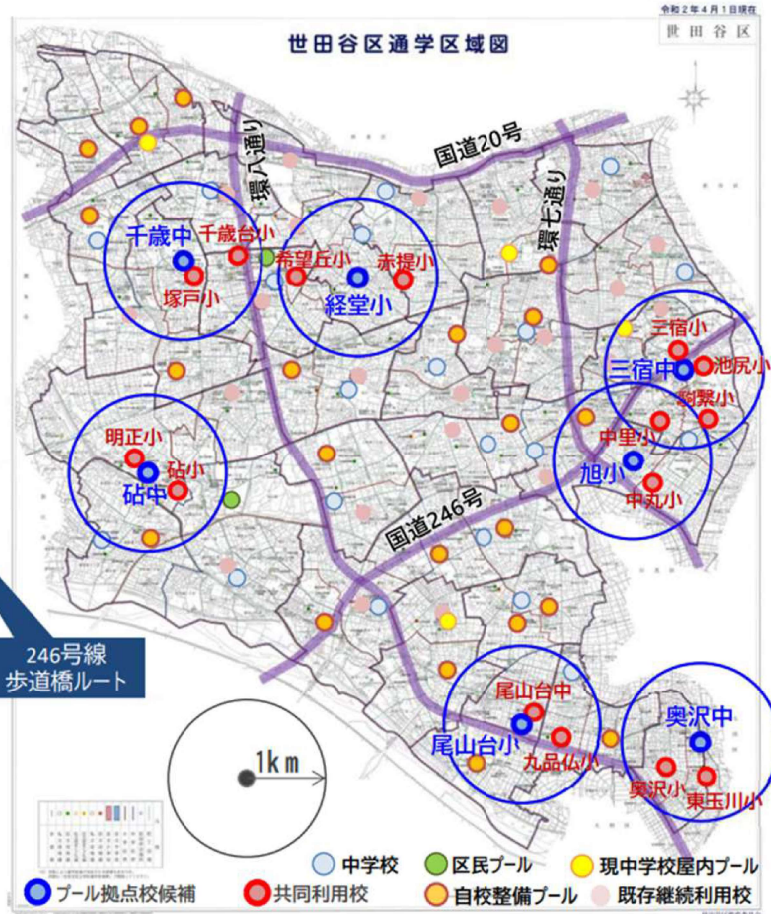
### 抽出条件

- ①継続利用可能な屋上プール（可動床）を設置している小学校は除外する
  - ②既存の区民開放利用中の屋内温水プールの中学校は、学校共用拠点プールにしない
  - ③バスの利用は考慮せず、徒歩1km圏内（最大15分以内）とする。その際、長い坂道や幹線道路横断などの要因も考慮する
  - ④拠点校は敷地にゆとりがあり部活動でも活用できる中学校を軸とするが、抽出したグループ内で改築年次が早い学校を拠点校とする
- 以上より、①～④の条件でかつ、3～4校共同利用できる候補校の抽出を実施した

11

プール拠点校までの歩行距離一覧表（机上検討）

| 拠点校    | 共同利用校 | 歩行距離          |
|--------|-------|---------------|
| 1 砦中   | 明正小   | 270m          |
|        | 砦小    | 400m          |
| 2 尾山台小 | 九品仏小  | 400m          |
|        | 尾山台中  | 80m           |
| 3 奥沢中  | 奥沢小   | 650m          |
|        | 東玉川小  | 450m          |
| 4 千歳中  | 塚戸小   | 240m          |
|        | 千歳台小  | 650m          |
| 5 経堂小  | 赤堤小   | 650m          |
|        | 希望丘小  | 850m          |
| 6 旭小   | 中里小   | 700m          |
|        | 中丸小   | 450m          |
| 7 三宿中  | 三宿小   | 350m (1,000m) |
|        | 池尻小   | 170m          |
|        | 駒ヶ丘小  | 750m          |



従来方式の全校自校

共同利用合理化案

※上記学校数は小学校のみを示す

12

## ●簡易温水プール共同利用における効果と課題

### 効果

- ・ 65年のライフサイクルコストでは経費削減が見込まれる
- ・ インストラクターに水泳授業を委託しても、一部経費相殺効果が見込まれる
- ・ 教員の負担軽減（プール授業の一部委託、プール管理・運営）
- ・ プール跡地を有効活用できる
- ・ 学校利用を前提としているが、空いている時間帯は地域利用ができる可能性もある

### 課題

- ・ 共同利用を想定しているグループ内では、敷地にゆとりがある中学校の改築年次より、小学校改築年次が早い傾向がある
- ・ 子供の安全確保（拠点校までの移動経路（距離、高低差、大通り）、真夏の移動時の熱中症対策）
- ・ 共同利用する拠点校と拠点校以外の学校（教員）や保護者の理解
- ・ 複数校での教員によるプール授業の調整（教員の負担増）
- ・ 自校にプールが無くなる小学校の夏休み水泳教室の実施
- ・ プール授業の質と量の低下の懸念

プールの共同利用により期待される効果が大きい一方、実施に向けた課題も多い

13

## ●検証：奥沢中を拠点とした簡易温水プールの共同利用（奥沢小と東玉川小）の例として検証

- ・ 対象校：奥沢中学校（生徒数：151人）  
奥沢小学校（児童数：438人）  
東玉川小学校（児童数：382人）
- ・ 移動手段：奥沢小学校 徒歩13分程度※  
東玉川小学校 徒歩9分程度※  
※大人では80m/分のところ50m/分で計測
- ・ 実施時期：6月～10月
- ・ 利用方法：小学校と中学校の水泳授業のカリキュラムを調整して利用
- ・ 水泳授業：5回（2コマを1回）

